

講義名	財務会計論（マーケティング学科）				
担当教員	井上 定子				
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2時限		授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考	
主題と概要					
会計には、企業の外部の利害関係者（株主、取引先、消費者など）に対して情報を提供する財務会計分野と、内部の利害関係者（経営者）に対して情報を提供する管理会計分野がありますが、本授業では前者について学習します。財務会計は、財務諸表（貸借対照表や損益計算書）を通じて、外部の人々に企業活動を忠実に開示する役割を主に果たしてきましたが、現在では会計（制度）の変化が企業活動自体に変化をもたらししているということも事実です。そこで本授業では、単に財務会計の基礎知識を学習するだけではなく、新聞やニュースで取り上げられた会計に関する記事を中心に、財務会計の基本的役割とそれが企業経営に与える影響を解説・確認することを通して財務会計の基礎を学んでいきます。本講義では、まず、簿記の基本を復習することを通して、簿記の知識を財務会計へとむすびつけます。その上で、社会における会計の役割、財務諸表の仕組み、そして財務会計の基礎理論を構築している企業会計原則を学習していきます。					
到達目標					
（1）簿記の知識の習得をできるようにする。 （2）財務会計の基礎知識の習得をできるようにする。 （3）新聞記事やニュースで取り上げられる会計関連記事を読み、理解できるようにする。 * 本授業は、対面にて実施します。なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業（オンデマンド形式）へと変更する可能性があります。					
提出課題					
講義内容の理解度を確保するため、次の課題を課します。 1. ミニレポートを授業中に数回実施 2. 中間試験（場合によっては課題レポート）を2回実施 なお、ミニレポートおよび課題レポートは、締め切り日以降、受け取りませんので、注意してください。 また、オンライン授業（オンデマンド形式）に変更した場合、中間試験は課題レポートに変更し、課題提出はすべてRYUKAポータルを通じて行います。					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック					
中間試験（あるいは課題レポート）およびミニレポートを実施した後、解説を行います。					
評価の基準					
・ 中間試験あるいは課題レポート（50％）：授業内容の理解度を確保するための総合問題 ・ ミニレポート（20％）：授業内容の理解度を確保するための個別問題、参加意欲なども含める。 ・ 定期試験（30％）：授業内容の理解度を確保するための総合問題 以上の3項目を総合して評価を行います。 なお、定期試験（30％）の対面での実施が困難な場合は、中間試験あるいは課題レポート（60％）とミニレポート（40％）の2項目を総合して評価を行います。					
履修にあたっての注意・助言他					
注意 ・ 対面にて授業を実施します。なお、新型コロナウイルスの感染状況により、オンライン授業（オンデマンド形式）に変更する可能性があります。 ・ ミニレポートおよび課題レポートは、厳切厳守です。期日を過ぎての受け取りはしません。 助言 ・ 基礎簿記」を履修済みあるいは履修中であること、あるいは、日商簿記検定3級の知識があることが望ましいと考えます。					

教科書

.使用しない。

プリント資料及び参考文献

テキストを使用しない代わりに、プリントを使用します。
プリントは当日にのみ配布します。それ以降は一切配布をしませんので、注意してください。

参考文献は以下のとおりですが、適宜、講義中に紹介します。
・ 都町健『現代財務会計のエッセンス』中央経済社、2017年。
・ 松井久樹・清田一幸『財務会計・入門 第13版』有斐閣、2020年。
・ 田中健二『財務会計入門【第5版】』中央経済社、2018年。

授業計画

1. 簿記の基本（1）：貸借対照表の仕組み
2. 簿記の基本（2）：貸借対照表の仕組み
3. 簿記の基本（3）：財務諸表の読み方
4. 会計の基本（1）：企業の活動と会計の関係性
5. 会計の役割（2）：制度会計について（トライアングル体制）
6. 会計の役割（3）：利害調整機能、意思決定支援機能、会計責任遂行の機能
7. 監査制度
8. 1から7までの講義のまとめ
9. 会計規範：会計公平・会計原則・会計手続
10. 企業会計原則（1）：真実性の原則
11. 企業会計原則（2）：正当性の原則、明瞭性の原則
12. 企業会計原則（3）：継続性の原則、保守主義の原則
13. 企業会計原則（4）：資本・利益区分の原則
14. 企業会計原則（5）：単一性の原則、重要性の原則
15. 9から14までの講義のまとめ

* 講義の進捗度により、講義内容等が変更する場合があります。.

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・ 復習を中心とした学習を行うことが重要です。具体的には、各回に配布した資料を熟読し、自身で要点をまとめること（約1時間程度）が重要です。
・ 講義内容の理解を確認するためにミニレポートと課題レポートを実施します。これらのレポートを自身の理解度を確保する目安にしてください。そして、ミニレポートや課題レポートを見直し、授業の振り返りを行うこと（約1時間程度）が重要です。
・ 不明な点があれば、メールを通して質問を行うなど、自身の疑問点を解決するように努めてください。このような復習の積み重ねが講義全体の理解につながります。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

目標(1)～(3)を達成することで、DP(1)～に貢献できる。各業界の動向や問題点について、会計の観点から理解する基礎知識を身につけることができる。これをもとに、会計や財務という観点から企業マネジメントに関する基本的な課題提案が可能となることが期待される。授業計画の第1回目から第15回目の講義内容全体が、各業界の動向や問題点を会計の観点から理解するための基礎知識の習得に関連していることから、DP(1)～に間接的であるが貢献している。
また、目標(1)と(2)を達成することで、DP(2)～に貢献できる。簿記の知識を着実に学び、その知識を踏まえて財務会計の基礎知識の習得を行うことから、企業の財政状態や経営成績等に関する情報について、基本的な分析が可能となる。ただし、高度な財務分析および財務諸表の作成に関しては貢献しない。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考